

ユーザーガイド

Profoto Connect Pro

他言語は以下にアクセスしてください。

Pour les autres langues, veuillez consulter :

www.profoto.com



新しい Profoto 製品をご購入いただきありがとうございます。 とうございます。

新しいフラッシュやライトシェーピングツールを含む弊社の製品には、ほぼ半世紀に及ぶノウハウが蓄積されています。

長らく弊社が重視してきたのは、わずかな細部にもこだわるということです。わたしたちは、十分に自信の持てるものだけを Profoto の製品としてお届けしています。各製品は出荷前に、多岐にわたる徹底的な検査を受けており、一定水準の性能、品質、および安全性に適合していない製品は出荷されません。

こうして出荷された Profoto 製品は、お客様を長期的に支援できると確信しています。とはいえ、製品の購入はその過程のほんの始まりにすぎません。ライティングには多様な創意工夫が伴いますが、弊社では、あらゆるライティング方法、幅広いライトシェーピングツールと常に最新技術を取り込んだ製品を提供できることを誇りにしております。

ライティングの可能性は無限です。最初は戸惑うかもしれませんが、すぐにコツを掴めるでしょう。

弊社の Profoto アプリをダウンロードして MyProfoto アカウントに登録していただくと、Profoto デバイスの管理や、製品情報とアップデートを確認することができます。トップクラスの写真家によるライトシェーピングを理解するためのヒントやコツもお届けします。弊社の持つ 50 年を超えるライトシェーピングの経験を分かち合うことで、皆さんの成長のお役に立てれば幸いに思います。

ぜひ Profoto 製品をご活用ください。

Conny Dufgran (創業者)

一般的な安全上の注意事項



重要な安全情報と警告!

装置を操作する前に、必ずクイックスタートおよび安全ガイドとユーザーガイドをお読みください。クイックスタートと安全ガイドは常に確認できるところに保管してください。Profoto 製品は屋内での使用を想定して作られています。湿度や強い電磁場にさらされる可能性のある場所、または可燃性のガスや粉塵のある場所に装置を置いたり、そのような場所で装置を使用したりしないでください。装置に水滴などがつかないようにしてください。花瓶など液体の入った容器を装置の上や近くに置かないでください。装置を湿度が高い条件下で急激な温度変化にさらさないでください。本体内部で結露が発生する可能性があります。バッテリーの改造、分解、開封、落下、粉砕、穴あけ、60°C以上の加熱、焼却、または細断をしないでください。保護ガラスカバーまたは保護グリッドのないフラッシュヘッドを使用しないでください。ガラスカバーにひびや深い傷などの損傷が目視で確認でき、効果が損なわれると考えられる場合は、装置を使用する前に、ガラスカバーを交換してください。ランプが損傷していたり、熱によって変形していたりする場合は交換してください。ランプをホルダーに取り付ける際は、素手でバルブに触れないように注意してください。必ず保護手袋を使用し、ランプを交換する前に装置を冷却してください。ストロボ機材のメンテナンスを実施する際は必ず保護手袋と保護メガネを着用してください。製品ケースにひびが入った場合は製品の使用をただちに止めて、バッテリーを取り外し、Profoto サービスまでご連絡ください。フラッシュ製品に使用されるタイプのコンデンサは破損する可能性を排除することはできません。破損した場合、フラッシュ製品から煙とともに鋭い臭いが放出することがあります。放出物が顔にかからないようにしてください。万が一放出物が目や口にかかった場合は水で洗い流してください。放出物は無毒です。電解液が皮膚に触れた場合は、水と石鹸で洗い流してください。電解質は口にしないでください。スタンドを使用するときは、必ず装置がしっかりと取り付けられていることを確認してください。Profoto の製品は、写真や動画などの撮影を目的に提供されており、それ以外の用途は想定されていません。



警告 - 感電 - 高電圧

装置の点検、調整、修理は必ず公認の資格を持つサービススタッフのみが行うものとします。装置は高電圧で動作します。フラッシュ、ジェネレーター、またはランプヘッドは、電源オフや電源ケーブルを取り外した場合でも、しばらくの時間は感電の危険があります。



注意 - やけどの危険 - 高温部品

高温の部品に素手で触らないでください。モデリングランプやフラッシュチューブを使用すると、特定の金属部品、フロントレンズ、ガラスカバーが使用時に強い熱を発生する場合があります。どのランプもごくまれに爆発し、高温の破片が飛び散ることがあります。

注意!

ライト・フラッシュ製品からは有害の恐れのある光線が放射されます。動作ランプを直視しないでください。目を傷める恐れがあります。フラッシュやライトを使用する際は人に近づき過ぎないでください。フラッシュが発光されることを予期していない被写体や重機操作中の人、または予期しないフラッシュにより怪我や危害を引き起こす可能性のある活動を行っている人に向けてフラッシュを発光しないでください。遠く離れた場所からリモートでフラッシュがトリガーされることもありますので注意してください。



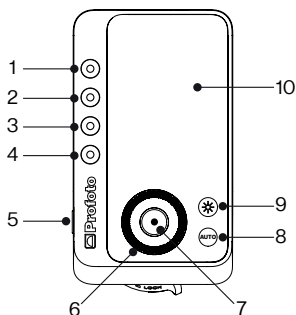
最終廃棄処分

製品が寿命に達した場合は、家庭ゴミと一緒に処分しないでください。装置には環境に有害な可能性のあるバッテリー、電気部品および電子部品が含まれています。装置はProfoto 販売店に無料で返却いただくことによって、リサイクルに活用することができます。バッテリー、電気部品および電子部品の処分については、それぞれ現地の規制に従ってください。

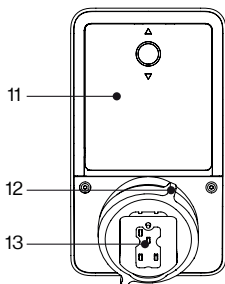
目次

新しい Profoto 製品をご購入いただきありがとうございます。	3
一般的な安全上の注意事項	4
各部名称	6
Connect Pro について	7
AirX について	7
はじめに	8
安全義務	8
製品登録とファームウェアアップデート	8
Connect Pro とフラッシュのセットアップ	8
基本的な操作	9
電源オン/オフ	9
メインディスプレイの表示	10
トップバー	11
シンクロ設定インジケーター	11
AUTO/MANUAL フラッシュコントロール	11
グループの選択	12
Air 1 と Air 2 コントロールモード	13
MANUAL フラッシュコントロール	14
AUTO フラッシュコントロール	15
定常光のオン/オフ	16
ヘッドのオン/オフ	16
設定メニュー	18
Air チャンネル	18
コントロールモード	19
Sync/X-Sync	19
Bluetooth	21
詳細設定	22
Profoto アプリ	24
無線に関するトラブルシューティング	25
技術仕様	27
クレジット	28

各部名称



- | | |
|-------------|------------------------------------|
| 1. グループボタン1 | 6. メインダイヤル |
| 2. グループボタン2 | 7. センターボタン |
| 3. グループボタン3 | 8. オートボタン (Non-TTLバージョン:ヘッ드의オン/オフ) |
| 4. グループボタン4 | 9. 定常光ボタン |
| 5. テストボタン | |



- | | |
|--------------|-----------------|
| 10. ディスプレイ | 12. ロック機構 |
| 11. バッテリー収納部 | 13. ホットシューコネクター |

Connect Pro について

小型で軽量なConnectProは、オフカメラ・フラッシュの操作性向上を目的として設計されています。Profotoライトを手動で調整および同期するオプションを内蔵しており、カメラのホットシューに取り付けることで、カメラからProfotoフラッシュを操作するワイヤレス機能として動作します。

- ConnectProでは、内蔵されたProfotoAir接続を使用してProfotoの全フラッシュをトリガーする、また遠隔でコントロールすることができます。
- ConnectProを使用して、AirRemoteとAirSyncProfotoAirの送受信機をトリガーすることもできます。
- ConnectProは、Profoto以外のフラッシュには対応していません。
- ConnectProは、第三者のいかなる無線トリガーシステムにも対応していません。

AirX について

ConnectProにはProfotoAirX接続が内蔵されています。AirXは、AirとAirTTLに続く、第3世代のProfoto無線接続です。

AirXは以下をサポートしています。

- ProfotoAir/AirTTL対応フラッシュでの無線Air/AirTTL機能。
- AirX対応Profotoフラッシュおよびアプリでの専用AirX機能。

はじめに

安全義務

Connect Proの使用を開始する前に、本ユーザーガイドのほか、クイックスタートおよび安全ガイドをお読みいただく必要があります。製品を安全に操作していただくための重要情報や、規制に関する重要情報が記載されています。クイックスタートおよび安全ガイドの印刷版が、Connect Proとともに提供されています。多くの言語に翻訳されています。また、このユーザーガイドのダウンロード元にも用意されています。

8

製品登録とファームウェアアップデート

ご使用の前に、製品登録とファームウェアアップデートが必要です。Connect Pro を初めて起動すると、Welcome 画面と QR コードが表示されます。この QR コードをスマートフォンでスキャンすると、Connect Pro のセットアップ方法を説明するウェブページに移動します。

Connect Pro とフラッシュのセットアップ

1. 単4電池を Connect Pro のバッテリー収納部 [11] に装着します。
2. Connect Pro 上のホットシューコネクタ [13] をカメラのホットシューにスライドさせます。ロック機構 [12] を時計回りに回転させて、ホットシューにしっかりとロックします。
3. Connect Pro の電源をオンにします。
4. Connect Pro 上で Air チャンネルを選択します。撮影現場で使用するすべての Profoto フラッシュで同じ Air チャンネルを選択してください。

注

Connect Pro は有効範囲内にある同じチャンネルに設定された全フラッシュをトリガーし操作します。そのため、使用するライトを別の撮影現場の近くに設置する場合は、使用しているチャンネルが異なることを必ず確認してください。

5. 複数のフラッシュを使用していて、Connect Pro からそれぞれ個別に操作したい場合は、各フラッシュで異なる Air グループ (A~F) を選択します。

基本的な操作

電源オン/オフ

オン: テストボタン [5] を1秒以上長押しします。

オフ: システムの電源がオンのときにテストボタン [5] を 1.2 秒以上長押しします。

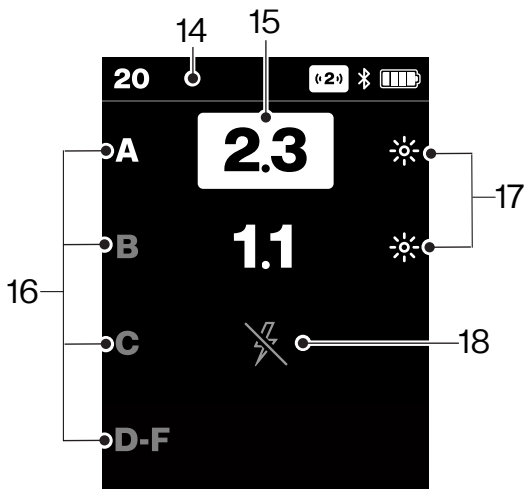
Connect Pro のスイッチをオフにすると、現在の設定が保存され、ユニットのスイッチが再度オンになったときに適用されます。

注

節電機能により、Connect Pro は一定時間操作が行われない場合、自動的にスタンバイモードに入るか、完全にオフになります。スタンバイや自動オフになるまでの待機時間は、設定メニューで選択できます。

メインディスプレイの表示

ConnectProを起動すると、メインディスプレイが表示されます。この画面から、出力の調整、定常光のオン/オフの設定、フラッシュ(ヘッド)のオン/オフをフラッシュのグループごとに行うことができます。



- 14. トップバー
- 15. 出力調整
- 16. グループマーク
- 17. 定常光オンマーク
- 18. ヘッドオフマーク

トップバー

トップバーには、アクティブなキー設定に関する現行の情報が表示されます(左から順に)。

- Airチャンネル(1-100)
- シンクロ設定(1st、2nd、Hi-SまたはX)
- フラッシュコントロール(MANUALまたはAUTO)
- 制御モード(Air1またはAir2)
- Bluetoothのステータス
- バッテリーステータス

トップバーのシンボルがすべて表示されると、以下のような配置になります。



シンクロ設定インジケータ

Connect Pro のカメラブランド別バージョンでは、トップバーに選択した/有効なフラッシュシンクロ設定が表示されます。シンクロ設定インジケータが表示できる内容:

- Hi-S-ハイスピードシンクロを選択中/作動中
- 1st-1st(先幕)シンクロを選択中/作動中
- 2nd-2nd(後幕)シンクロを選択中/作動中
- X-カメラとのデータ通信はすべて無効

シンクロの設定方法については、Sync/X-Syncの項を参照してください。

AUTO/MANUALフラッシュコントロール

AUTO/MANUALの切り替えは、各カメラブランド専用のConnect ProのAUTOボタン[8]で行います。AUTOが有効になっていると、トップバーにAUTOアイコンが表示されます。MANUALが有効になっている場合は、トップバーにアイコンが表示されません。

AUTOフラッシュコントロールが有効になっている場合、Connect ProはカメラのTTL(Through The Lens; スルー・ザ・レンズ)自動調光の測光機能を利用して、接続されている全フラッシュの出力を写真ごとに自動調整します。

MANUAL フラッシュコントロールが有効になっている場合、出力調整はすべて Connect Pro から手動で行います。出力は自分で調整しない限り変更されません。

AUTO から MANUAL に切り替えると、フラッシュは MANUAL に切り替える直前の画像撮影で使用した出力を維持します。そのため、ライトを手動でコントロールする場合でも、前回の出力を基準にして手動調整できるため、AUTO フラッシュコントロールを使用することによるメリットを感じていただけます。

12

AUTO/MANUAL の選択内容は、Connect Pro の電源をオフにして再度オンにする際も維持されます。

注

- AUTO フラッシュコントロールが選択されることで影響があるのは、グループ A～C だけです。グループ D～F は常に MANUAL です。
- AUTO 設定は Non-TTL バージョンの Connect Pro では使用できません。Non-TTL バージョンの Connect Pro では、AUTO ボタン [8] はヘッドのオン/オフボタンに変わります。

グループの選択

- リモートを起動すると、グループ A が選択された状態となります。
- グループボタン [1]、[2]、[3] を押して、任意のグループを選択します。

グループ D～F をコントロールする表示への切り替え

- グループボタン [4] を押して、グループ A～C と D～F の表示を切り替えます。

すべてのグループの選択

- MANUAL フラッシュコントロールが選択されていると、すべてのグループを選択できます。
- すでにいずれかのグループが選択され、そのグループのグループボタン [1]、[2]、[3] が再度押されると、すべてのグループ (A～F) が選択されます。
- ユーザーがグループ A～C とグループ D～F の表示を切り替えても、すべてのグループの選択状態は維持されます。
- すべてのグループが選択された状態でグループボタン [1]、[2]、[3] のいずれかが再度押されると、そのグループのみが選択された状態に戻ります。

Air1とAir2コントロールモード

Connect Pro からライトをコントロールする方法は2つあります。

Air1モードは「従来」のコントロールモード設定で、製造中止となった製品を含めた Profoto Air ライト全種類のコントロールに使用できます。このコントロールモードは、実験的な撮影方法をとる場合にも推奨されません。各ライトの正確な出力設定を確認することはできませんが、その代わりに、同期が外れることなく出力を（ライト上で、または Connect Pro から）詳細な設定値で自由に変更できます。Air 1 モードが有効になっていると、Air 1 アイコンがトップバーに表示されます。



Air 2モードを使うと Connect Pro はマスターになるため、カメラからすべてコントロールしたい場合にお勧めです。Air 2 モードでは、各グループの出力設定を直接 Connect Pro のディスプレイでコントロールおよび確認できます。ただし、これにより、出力のコントロールが Connect Pro からしかできなくなります。出力を直接いずれかのライト上で変更すると、そのライトの出力設定は一時的に Connect Pro との同期が切れ、次に Connect Pro の操作で設定を上書きするまでその状態が維持されます。

Air2モードはProfoto Airライトすべてに対応しているわけではありません。互換性があるのは基本的にAirX接続を内蔵したProfotoライトに限られています。Air 2 モードが有効になっていると、Air 2 アイコンがトップバーに表示されます。

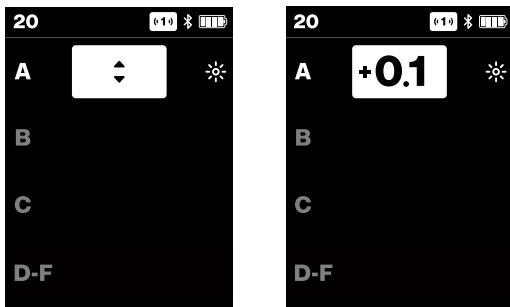


2つの設定を切り替える方法については、コントロールモードのセクションをご覧ください。

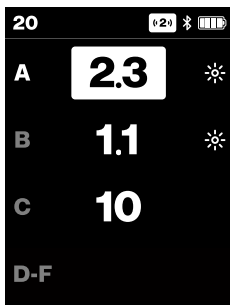
MANUALフラッシュコントロール

- メインダイヤルを回すと、選択されているグループの出力を 0.1 f-stop 刻みで調整できます。
- 時計回りに回転すると出力が上がります。

Air1コントロールモードでは、どのグループの出力も表示されません。グループを選択すると、そのグループの出力が調整できることを示す矢印が表示されます。メインダイヤル[6]を回転すると、出力の変化が数値の左に「+」または「-」で表示されます。



Air2コントロールモードでは、メインダイヤル[6]で各グループのエネルギー出力を0.1~10の値で設定できます。

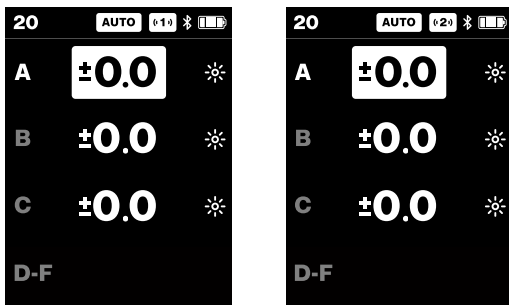


AUTOフラッシュコントロール

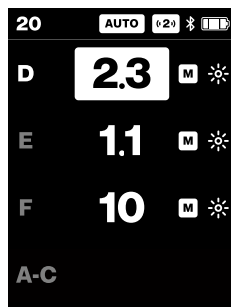
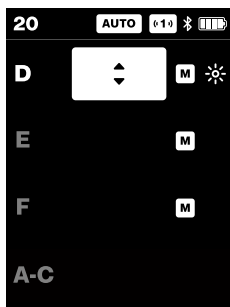
AUTOフラッシュコントロールが選択されている場合、事前選択できる露出オフセットはグループA～Cだけです。

グループA～Cに選択されているオフセットは常に表示されます。リモートを初めて起動すると、工場出荷時の設定でグループAが選択され、すべてのグループオフセットは±0.0になっています。

- メインダイヤルを回転すると、選択しているグループのオフセットを調整できます。
- 時計回りに回転するとオフセットが増加します。
- オフセットは-2.0から+2.0 (f-stop 刻み) で調整できます。

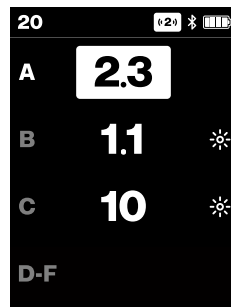
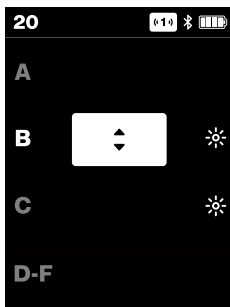


AUTO フラッシュコントロールが有効の場合、影響があるのはグループA～Cだけです。グループD～Fはマニュアルのままです。これを示すM(マニュアル)が数値の右側に表示されます。グループD～Fが選択されると、MANUALが選択されているときと同様にそれぞれの出力を調整できます。



定常光のオン/オフ

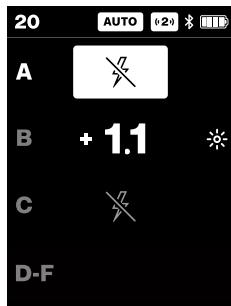
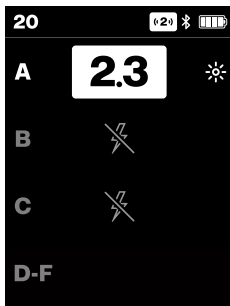
- 定常光ボタン [9] を押すと、そのグループのライトのオン/オフが切り替わります。
- オンにすると、そのグループに太陽のアイコンが表示されます。
- 選択されている定常光のオン/オフ状態は、AUTO/MANUAL を切り替えても維持されます。



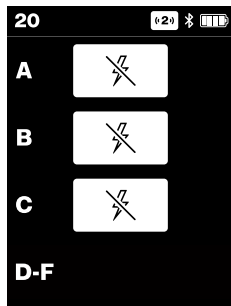
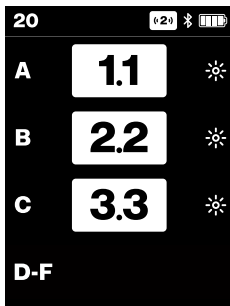
ヘッドのオン/オフ

- ヘッドのオン/オフは、グループボタン [1]、[2]、[3] を 1 秒以上長押しすることで切り替わります。
- ヘッドをオフにすると、そのグループのその他すべてのコントロールが無効になります。

- ヘッドがオフに設定されると、オンのときに表示される定常光アイコンとオフセット値が非表示になります。この場合、ハイライトと、ヘッドオフアイコンだけが示されます。
- 選択されているヘッドのオン/オフ状態は、AUTO/MANUAL を切り替えても維持されます。
- ヘッドをオンに戻すと、フラッシュと定常光の設定がその前に選択されていた設定に戻ります。

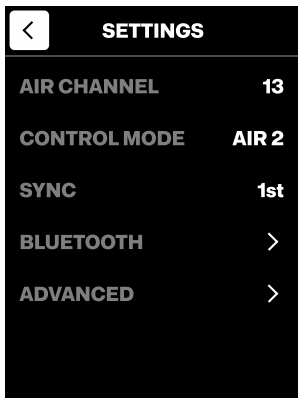


全グループが選択されている場合、いずれかのグループボタンを長押しすることですべてのヘッドをオフに設定できます。



設定メニュー

センターボタン [7] を押すと、設定メニューが開きます。



ダイヤル [6] とセンターボタン [7] を使用して設定メニュー内を移動します。

- ダイヤルを回して任意の設定を選択 (ハイライト) します。
- センターボタンを押して各オプションを切り替えたり、サブメニューを開いたりします。
 - ダイヤルを回してサブメニューオプションを切り替えます。
 - センターボタン [7] を押してハイライトされたオプションに設定します。
- テストボタン [5] を押すか「<」を選択してからセンターボタン [7] を押して、設定メニューを終了します。

Airチャンネル

「Air channel (Air チャンネル)」の設定を使うと、Profoto Air フラッシュのワイヤレストリガーに使用するチャンネル (1~100) を選択できます。

注

Connect Pro で使用するフラッシュすべてに同じチャンネルを設定する必要があります。100 チャンネルすべてを選択できるのは、AirX 接続を内蔵した Profoto フラッシュだ

けです。古いフラッシュでは、1〜8 または 1〜20 のチャンネルしか選択できない場合があります。

コントロールモード

コントロールモード設定は、Air1 と Air2 コントロールモードの選択に使用します。詳細は“Air 1 and Air 2 control mode”をご覧ください。

Sync/X-Sync

Sync/X-Sync の設定は、Connect Pro のカメラブランドのバージョンによって異なります。これは、フラッシュアクセサリがホットシューのデータインターフェースを介して変更できるカメラ設定については、カメラメーカーがさまざまなルールを設定しているためです。

Connect Pro の各バージョンで利用可能な Sync/X-Sync の設定は、以下の通りです。Connect Pro の Sync/X-Sync 設定に加えて、カメラ側で設定する必要がある場合があります。その際は、カメラのユーザーガイドをご参照ください。

Connect Pro (Canon 用)

シンクロメニューは3つの設定から選択できます。

- **1st/Hi-S** - この設定を推奨します。選択したシャッタースピードに応じて、カメラが自動的に 1st フラッシュシンクロまたはハイスピードシンクロを選択します。
- **2nd** - カメラが2nd(後幕)フラッシュシンクロを選択します。なお、この設定は、ハイスピードシンクロを必要とするシャッタースピードを遮断します。
- **X-Sync** - カメラとのホットシューデータ通信を無効にする特別な設定です。これは、オート(TTL)、ハイスピードシンクロ(HSS)機能を無効にしますが、Canon 製カメラの一部機種では高速連写が可能になります。

Connect Pro (Nikon 用)

X-SyncのON/OFFが設定できます：

- **X-Sync OFF** - この設定を推奨します。カメラ側で1stまたは2nd(後幕)フラッシュシンクロを選択する必要があります。オートFP(HSS)は、カメラの設定メニューで、手動で有効にする必要があります。オートFP(HSS)を有効にすると、選択したシャッタースピードに基づき、必要なときに自動的にHSSに切り替わります。

- **X-Sync ON** - カメラとのホットシューデータ通信を無効にする特別な設定です。これはオート (TTL)、オート FP (HSS) 機能を無効にしますが、Nikon 製カメラの一部機種で高速連写が可能になります。

Connect Pro (Sony 用)

- Connect Pro (Sony 用) の設定メニューには、Sync/X-Sync の設定はありません。
- Connect Pro とのフラッシュ同期を有効にするには、カメラでワイヤレスフラッシュを選択する必要があります。
- カメラ側で 1st または 2nd (後幕) フラッシュシンク口を選択する必要があります。選択したシャッタースピードに基づき、必要なときに自動的にハイスピードシンク口 (HSS) に切り替わります。

Connect Pro (Fujifilm 用)

シンク口メニューは 3 つの設定から選択できます。

- **1st** - カメラが 1st (先幕) フラッシュシンク口を選択します。
- **2nd** - カメラが 2nd (後幕) フラッシュシンク口を選択します。
- **Auto FP (Hi-S)** - この設定を推奨します。選択したシャッタースピードに応じて、カメラが自動的に 1st フラッシュシンク口またはハイスピードシンク口を選択します。

Connect Pro (Leica 用)

X-Sync の ON/OFF が設定できます：

- **X-Sync OFF** - この設定を推奨します。カメラ側で 1st または 2nd (後幕) フラッシュシンク口を選択する必要があります。シャッタースピードに応じて、カメラが自動的にハイスピードシンク口 (HSS) を選択します。
- **X-Sync ON** - カメラとのホットシューデータ通信を無効にする特別な設定です。これにより、AUTO (TTL) およびハイスピードシンク口機能は無効になりますが、Profoto と互換性のない Leica カメラの古いモデルで、他のすべての Connect Pro 機能を制限なく使用することができます。

Profoto Connect Pro (TTL 非対応)

- Connect Pro (TTL 非対応) の設定メニューには、Sync/X-Sync の設定はありません。

- カメラ側で 1st または 2nd (後幕) フラッシュシンクロを選択する必要があります。
- Connect Pro (TTL非対応) は、いずれのカメラのオート (TTL)、ハイスピードシンクロ / オート FP にも対応していません。

Bluetooth

「BLUETOOTH」の設定を使用すると、Profoto アプリとの接続を有効および無効にできます。

- BLUETOOTH: 「ON (オン)」を選択すると Connect Pro を検出できるようになり、「OFF (オフ)」にすると Bluetooth は無効になります。Bluetooth を有効にすると、トップバーに Bluetooth アイコンが表示されます。



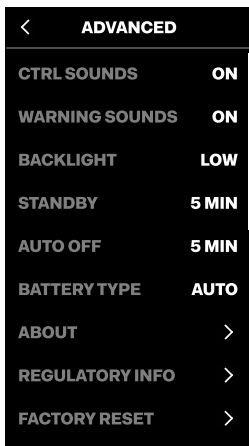
- リモートが Bluetooth で接続されていると、接続状態を示す Bluetooth アイコンが表示されます。



- DISCONNECT (接続切断): これは、Bluetooth が有効で、Profoto アプリに接続されている場合にのみ選択できます。Bluetooth をオフにせず、Profoto アプリの接続を強制的に切断する場合に選択できます。

詳細設定

詳細オプションでは詳細設定メニューが開きます。



Control sounds (操作音)

操作音設定では、ダイヤルとボタンの操作音を有効化または無効化します。工場出荷時の設定はオンです。

Warning sounds (警告音)

警告音設定では、誤露出アラーム音を有効化または無効化します。工場出荷時の設定はオンです。

注

EXP インジケーターは、警告音設定にかかわらず、誤露出アラームが作動する際には必ずメニューディスプレイ [10] に一時的に表示されます。

バックライト

バックライト設定ではディスプレイのバックライトを変更します。選択可能な設定は、LOW (低)、MED (中)、MAX (最大) です。工場出荷時の設定はMEDです。

注

選択されているバックライト設定はバッテリーの持続時間に大きく影響します。

スタンバイ

スタンバイ設定では、設定可能な無操作時間経過後に Connect Pro を自動的にスタンバイにするかどうかを設定します。選択可能な設定は 2 MIN (2 分)、30 MIN (30 分)、NEVER (しない) です。工場出荷時の設定は 2 MIN です。

Auto off (自動 OFF)

自動 OFF 設定では、設定可能な無操作時間経過後に、Connect Pro を自動的に OFF にするかどうかを設定します。選択可能な設定は 15 MIN (15 分)、1 HOUR (1 時間)、NEVER (しない) です。工場出荷時の設定は 1 HOUR です。

バッテリータイプ

バッテリータイプ設定では、Connect Pro で使用する単 4 電池のタイプを設定します。選択可能な設定は AUTO (自動) と LITHIUM (リチウム) です。工場出荷時の設定は AUTO で、アルカリ電池とニッケル水素電池の使用に推奨されます。リチウム電池を使用する場合は、バッテリーインジケーターを正確に表示するために、バッテリータイプ設定を LITHIUM に切り替えることが推奨されます。

概要

このセクションには、シリアル番号やファームウェアバージョンなどの情報が表示されます。

Regulatory info (規制情報)

このセクションには、規制に関する情報が表示されます。

Factory reset (出荷時の設定に戻す)

出荷時の設定に戻すオプションは、全設定を工場出荷時の既定の設定に戻すために使用します。

Profoto アプリ

Profoto アプリでは、新機能を継続的にアップデートしています。また、Connect Pro の最新機能のアップデートやバグ修正も、アプリからアクセスできます。

Profoto アプリのメリットの一部を紹介します。

- 簡単な登録とアップデート。購入製品を登録して簡単に Connect Pro の最新アップデートを入手できます。
- スマートなリモートコントロール。離れた場所にある Connect Pro とライトを、アプリからコントロールできます。

Profoto アプリは、App Store、Google Play、Huawei AppGallery から入手できます。Profoto アプリの詳細については、profoto.com をご覧ください。

Profoto アプリを Connect Pro に接続するには、Bluetooth を有効にする必要があります (Bluetooth のセクションをご覧ください)。次に Profoto アプリを起動してアプリ内の指示に従います。

無線に関するトラブルシューティング

Connect Pro と Profoto Air のワイヤレスリンクは、2.4 GHz 周波数帯で動作します。これは WiFi や Bluetooth などでも使用されているオープンな周波数帯です。弊社では Profoto Air リンクを信頼性が可能な限り高くなるよう設計していますが、どのようなワイヤレスソリューションにも制限はあります。

同期が途切れる問題に頭を悩ませている場合、または起こりうる同期の問題を回避する事前措置を講じたい場合に考慮すべき点をいくつかご紹介します。

- Connect Pro とフラッシュユニットの最適動作距離 (0.5～30 m / 1.5～100 ft) を可能な限り維持する。
- ケーブルやコードをアンテナに近づけない。
- Connect Pro とフラッシュユニットの間に可能な限り障害物を置かない。
- フラッシュを隠す場合、金属物質や、水の入った物体など、無線動作距離に影響するものの使用を避ける。
- WiFi ルーターやストリーミング Bluetooth デバイスを Connect Pro とフラッシュユニットの近くに置かない。
- 問題が発生した場合、別の周波数チャンネルに切り替えてみる。Connect Pro の 100 チャンネルは、2.4 GHz 帯で 20 の周波数に分割されています。チャンネル 1～20 は周波数で分割されています。チャンネル 21、41、61、81 は、チャンネル 1 と周波数を共有しています。詳細は次のページのチャンネル/周波数の表をご覧ください。

チャンネル1~20と周波数を共有しているチャンネル

周波数で分割されているチャンネル

1	21	41	61	81
2	22	42	62	82
3	23	43	63	83
4	24	44	64	84
5	25	45	65	85
6	26	46	66	86
7	27	47	67	87
8	28	48	68	88
9	29	49	69	89
10	30	50	70	90
11	31	51	71	91
12	32	52	72	92
13	33	53	73	93
14	34	54	74	94
15	35	55	75	95
16	36	56	76	96
17	37	57	77	97
18	38	58	78	98
19	39	59	79	99
20	40	60	80	100

技術仕様

モデル名	Connect Pro
Regulatory model (規制モデル)	PCA5537
動作温度	0°C ~ +30°C / +32°F ~ +86°F
保管温度	通常の室内環境で保管
バッテリータイプ	単 4 電池 x 3本必要 (アルカリ、リチウム、またはニッケル水素電池) 、3.0~6.0VDC
動作周波数と無線出力電力 (Air および Bluetooth Low Energy)	2402-2480 MHz - <20dBm EIRP (中国<10dBm)

技術仕様の詳細については、profoto.com をご覧ください。

クレジット

App Store は、米国および他の国で登録されている Apple Inc. の商標です。

Google Play および Google Play のロゴは、Google LLC の商標です。

HUAWEI および AppGallery は、中国およびその他の国で登録された Huawei Technologies Co. Ltd の商標です。

28

Bluetooth ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標です。Profoto による当該マークの使用はすべて、ライセンスに基づいて行われています。

その他の商標と商品名は各所有者の所有物です。

Profoto AB
Box 1264,
17225 Sundbyberg
Sweden

+46 (0) 8447 53 00
info@profoto.com
www.profoto.com

 **Profoto**

技術データと製品情報は予告なく変更される場合があります。

PGM0019-0000 B1.2023年3月